

ユースソーシャルワーカーに期待しています！

都立一橋高等学校

野村 浩人 主任教諭 (自立支援担当)

YSWの皆さんは、心理や福祉についての専門的な知識があるので、課題を抱えている生徒に対する接し方や、福祉機関との連携の仕方など、具体的な解決の方向性を示してくれています。その結果、学校としての生徒への対応が機敏になっていると感じています。これまで、個別対応が必要な生徒への対応はどうしても担当が抱えざるを得ませんでした。YSWの皆さんが生徒の課題と解決方向を情報提供してくれるので、学校の中で情報の共有化が図られるようになり、生徒の課題に応じて、校内で役割分担をしながら生徒の課題解決を図ろうとする動きにつながっています。



上田 明海 教諭 (自立支援担当)

YSWの皆さんを生徒や先生方に「歩く相談室」と紹介しています。生徒はYSWの皆さんが校内を巡回している時に、教員にはなかなか話さないちょっとした出来事(嬉しかったことや迷っていること、苦しんでいること等)をYSWに話しているようです。そんな「つぶやき」の中から生徒がどんな悩みや課題を抱えているかをうかがい知ることができます。個別相談やカウンセリングを避ける生徒も多いので、フランクに声をかけることのできるYSWの存在は学校にとってとても貴重だと思っています。

都立六本木高等学校

山西 恭子 主任教諭 (自立支援担当)

大人に対して不信感を持っていた生徒の支援ケースを紹介いたします。校内で支援会議を開き役割分担をしました。YSWが福祉事務所や児童相談所との連携等、私たちが思いもつかない専門的な視点で糸口を見付けてくれました。これまで大人といい思い出がなかった生徒だったので、関わりを増すごとに、生徒も「支えてもらっている」感じがもててきて、担任も「こんなに沢山の大人が自分のために動いてくれている。」ということが本人の励ましになっている。」とも言っています。



複雑なケースについては、すぐに問題解決して効果が出るという事は難しいですが、卒業までに結果が出なくても「高校時代にこのような関わりをしてくれた。」「自分のために頑張ってくれた。」という思いを持って卒業してくれたらいいなと感じています。

クラスに不登校の生徒がいた時に「とりあえずYSWに話してみよう。」と担任が思い、話しに行くという流れが自然にできるのが理想です。YSWの方々は、担任とは角度が違った視点で専門的なことをお話して下さるので、その糸口から生徒とつながり、少しずつ改善していく、そして卒業して次のステージに行ける、そこを目指しています。

土屋 佳子 さん

東京都教育委員会都立学校自立支援チーム研修プログラム検討委員
立教大学兼任講師

東京都の「自立支援チーム」派遣事業は、二つの点で画期的だと思います。

一つは、事業を生涯学習課が所管している点です。困難な状況に置かれている生徒の支援は、多くの社会資源やロールモデルを必要とします。また「自立(自律)」は、人間関係形成の構築が大切な要素であり、これには多様な体験が不可欠と考えます。地域や企業、NPOと連携し、生徒の社会体験活動や居場所づくりを担ってきた生涯学習課が、これまで蓄積してきた知見は、この事業でかなり生かされるのではないかと思います。



もう一つは、「ソーシャルワーカー」に「ユース」が付いている(強調されている)ことです。高校時代(青年期)は、社会的な自立に向かっていろいろなことを考え、自分を見つめる時期です。一方で、行動範囲が広がり自分でできることが格段に増えます。そうした可能性に満ちた生徒の力を信じて、引き出していくのが「ユースソーシャルワーカー(YSW)」の役割なのではないでしょうか。

YSWの皆さんには、生徒を一方向的に支援する(=生徒が支援される)のではなく、「パートナー」「理解者」としての関わりを期待しています。

横井 葉子 さん

東京都教育委員会都立学校自立支援チーム研修プログラム検討委員
上智大学非常勤講師

他県の場合、学校に関わるスクールソーシャルワーカーは、社会福祉士等福祉職の方が担っていることが多いのですが、東京都の自立支援チームには、キャリアコンサルタント等の知識・経験を持つ就労支援系の方と福祉の知識・経験を持つ福祉支援系の方が配置され、チームで支援をする仕組みになっています。



中途退学や進路未決定といった問題の背景や要因は複雑かつ多様です。社会の入り口に立っている高校生の自立に必要な支援は、福祉と就労ではっきりと分かれているわけではなく、福祉的な側面からの支援と進路決定などキャリア的な支援の両方が求められるケースも多いかと思います。

ユースアドバイザーが個別の課題に応じてコーディネートしながら、様々な資格や経験を持つスタッフがそれぞれの強みを生かしながら支援することによって、より実効性のある支援が可能になります。

「自立支援チーム」という事業名のとおり、生徒一人一人の課題に向き合って個々の自立をチームの力によって多面的に支援する、という点に、この事業の大きな特長があると思いますし、同時に可能性があると考えています。

この事業に関して詳しく知りたい方は、東京都教育庁地域教育支援部生涯学習課進路指導支援担当(電話03-5320-6874)までお問い合わせください。